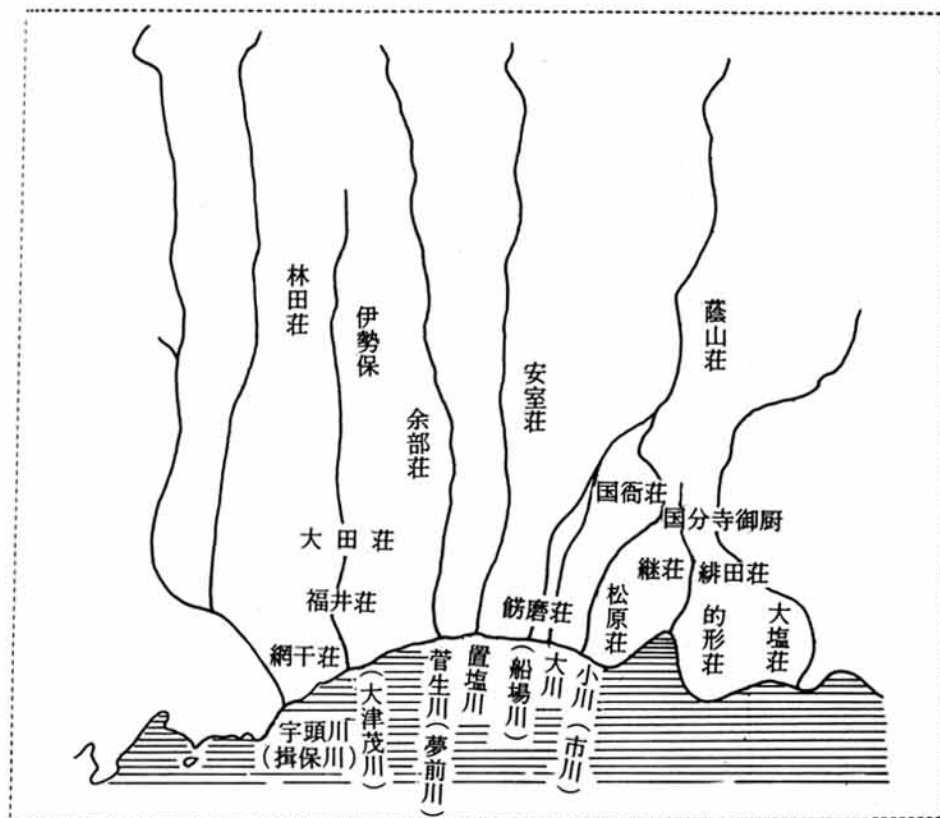


(二) 姫路にできた莊園しやうえん

福井莊ふくいしやうと松原莊まつばらしやう

奈良時代に、班田収授はんてんしゆうじゆの制度が行われていましたが、こ



姫路にあった荘園

れは、農民に平等に土地
 を与えるという制度です。
 けれども、人口が増える
 につれて、農民に与える
 田地でんちが足りなくなつてき
 ました。そこで、朝廷は、
 開墾かいこんをすすめました。そ
 して、開墾した土地を、
 自分のものにしてよいと
 決めたので、力のある貴
 族や寺社は、人々を使つ
 て開墾を始めました。こ

うしてできた私有地が莊園です。

平安時代になって、有力な貴族や寺社は、その莊園を増やすことに力を入れたので、税を納めなくてよい莊園が、全国いたるところに、みられるようになりました。農民の中には、多くの税を取られるよりも、貴族や寺社に開墾地を寄付して、少しの年貢ですませようとする者が出てきました。当時、政治の實権をにぎっていた藤原氏は、莊園を最も多く持っていました。

姫路の南西部にあった福井莊も、藤原氏の莊園でした。福井莊は、左大臣である藤原頼長ふじわらのよりながのもので、百七十ヘクタールもある広い莊園でした。記録によると、鎌倉時代の初めごろに、北どなりの大田莊おおた（太田）と水争いが起こったということでした。大田莊の代官が、米をたくさん取るために、大池おおいけの一部を埋めたことがありますが。この池の水は、福井莊の中の西土井にしどい・熊見くまみ・山戸やまと・宮田みやた・丁よら・天満てんま・長松ながまつなど七か村の田の水として使っていたので、この埋めた

ては、水不足の原因になるとして、争いが起こったのです。

松原荘は、白浜町しらはま一帯にありました。京都府にある石清水八幡宮いwashimizuはちまんぐうの荘園となっていました。一二七六年（建治二年けんじ）には、四千五百キログラムの米が取れたということです。灘なだのけんか祭りで有名な松原八幡宮まつばらはちまんぐうは、この荘園の管理のために建てられたのです。

その他の荘園　姫路にはこのほか、国分寺御厨こくぶんじみくりや・国衙荘こくが・緋田荘あけだ（明田）・継荘つぎ・大塩荘おおしお・的形荘まどがた・飭磨荘しかま（節磨）・網干荘あぼし・太田荘おおた・余部荘よべ・安室荘やすむろ・伊勢保いせほ・林田荘はやしだ・蔭山荘かげやまなどの荘園がありました。

荘園は、平安時代にたくさんでき、室町時代の終わりの応仁おうにんの乱らん後、武士に奪うばわれるまで続くという長い歴史をもっていますが、記録に残っているものは少なく、その様子がはっきりしません。

このように荘園が増えたので、取りたてていた税が少なくなり、朝廷の力が

弱くなっていきました。朝廷から任命された役人も自分の利益ばかりを考えていたので、地方の政治が乱れてきました。それで、地方の豪族たちは、自分の力で土地を守っていくために武装ぶそうするようになり、武士が生まれました。武士が、争いのたびに武力を發揮はつきして実力をつけていくと、人々は、貴族よりも武士にたよろうとするようになり、やがて武士の時代になっていくのです。